

STE (Shiroi Teaching Expert) の授業紹介 No. 7



白井市立白井第二小学校 杉本 あゆみ 先生 (国語科)

11月12日(金)、3年生の国語科の授業でした。白井第二小学校は、今年から研究教科が国語になりました。校内研修として杉本先生が『モチモチの木』を教材にした授業を行い、校内の先生方が参観し、その後の研修につなげていました。

杉本先生の思いがぎっしりとつまっていて、子供たち全員が今まで積み重ねてきた力を基に、自分の思いをもって話し合う、活気のある授業でした。

工夫1 「どんな力をつける單元なのか」「そのために何をするか」

この單元でつける力は何か、それを明確にもって授業をしていました。単元の目標を実現するために、1時間目に皆で「読みの課題」を立てました。その課題とは「豆太は、かわったのだろうか。」です。その課題に沿ってそれぞれの場面で考えたことを記録してきたノートを見返し、文章全体から「かわった」「かわらない」のどちらと考えるか話し合いました。課題が明確なので、子供たちは、次々に自分の思いを発表し合っていました。迷ったら、本文を読み返したり、小グループで話し合ったりして進んでいきました。

こうして登場人物について読み取って考えた経験を、幅広い読書につなげていくことが本単元の学びに向かう力の目標になっています。この後、斎藤隆介の本の紹介に続きます。本の紹介も「おすすめポイント」「主人公が変わったのはなぜか」「登場人物に対しての思い」「作者の他の話と比べて思ったこと」を書いていくそうです。



- ・要点をまとめることが目標→短い文章で書く。→1枚にまとめるリーフレット作り
 - ・順序を読み取る→順序が分かる→紙芝居づくり
- このように、目標を達成するための言語活動を工夫しています。

工夫2 発表の後の「どうですか」はいらない。

「どうですか。」「同じです。」よく目にする発表場面です。杉本先生の授業は、子供たちの自由な反応を引き出すためにこの「どうですか。」はありません。発表を最後まで聞いたら、すぐにそれに対して「ああ。」「なるほど。」「同じです。」「ん?」「私とちょっとちがうかも。」「付け足します。」など自由な反応があり、次の発表につながっていきました。

工夫3 読書活動推進補助教員の先生との連携

斎藤隆介の本を読みたくなるように、読書活動推進補助教員の前田先生と連携し、こんな素敵な環境を整えていました。本を読んだら題名が書かれたカラフルな紙を貼ります。モチモチの木が輝いていきます!



★杉本先生が大切にしていること★

- ・「できた!」「がんばったな。」という喜びを感じ、自己実現を目指す子供たちを育てること。そのために、具体的な学び方を教えている。(その言葉どおり、何を考えればよいのか、子供たちががっかり理解して学んでいました。)